公益社団法人 日本精神神経科診療所協会主催

「平成28年度 医療機関に対する精神障害者の就労支援ノウハウの普及・導入支援事業」研修会

精神科医療機関を対象とした
就労支援ノウハウの周知・普及セミナー

in 仙台

平成28年11月12日（土）

仙台市医師会館
2F ホール

【JSN】は「日精診」が厚労省から受託した事業の実働部隊として本年度、全国三ヵ所でセミナーを開催します。その第一弾が仙台。ちょうど紅葉の時期を迎えた杜の都に、田川理事長、金塚統括所長が出向き講演を行いました。

当事者とのトークセッションや、チーム支援を語り合うシンポジウムなど、盛りだくさんの内容となった一日を、ダイジェスト版でお届け致します。

開会のあいさつと本事業の説明を行う田川理事長。

「ハローワークと医療機関の連携による就労支援モデル事業について」

基調講演は宮城労働局職業安定部 職業対策課 地方障害者雇用担当官、荒井孝志氏より

「医療と連携した就労支援～原クリニックの就労支援の現状」

原クリニック院長、原敬造氏による発表

「職場定着におけるチーム支援のあり方について」

株式会社清月記 商品管理部 課長、日下部直憲氏による発表

「チーム支援による職場定着」

仙台市障害者就労支援センター 支援員、丸山毅氏による発表

会場の中には突然指名を受け、質問や意見を提供して下さった方もおられました

原敬造氏による閉会の挨拶

【第一部】トークセッション

当事者発表
～私が就労するまでの道のり～

発症から入院・・・「これは自分じゃない」

金塚：これから約40分に渡り、私ども【JSN】での訓練を経て就職をされた高村さんにお話を伺おうと思います。まずは自己紹介からお願いします。

高村：アパレル系企業で働く高村明信と申します。発症のきっかけは前に働いていた会社で、残業が多く身体・精神ともに疲れており、ミスが増え上司や同僚にも注意され仕事に行くのが困難になりました。家族と共に住んでいましたが部屋の片隅で過ごし、テーブルのないところで食事をしていました。家族に注意されつつも一ヶ月程度引きこもっていました。

金塚：受診をされたきっかけは？

高村：誰かに見られているように思い、これは自分じゃないと感じ、大学病院を受診しました。診断名はうつ病でした。その後、入院生活を一年間送りました。

金塚：辛かったこともあったのでは？

高村：ろれつが回らず、よだれも出て話すことがまったくできませんでした。もう話すことが不可能になるのではないかと思いました。入院中に友達が一人もできませんでした。診察は紙に書いて筆談で行いました。あまりにもショックが大きくて涙が止まりませんでした。自殺を考えたこともありました。症状を改善させるための薬がまったく効かず、ベッドで眠ることもできませんでした。

金塚：この病気になり、失ったものもあるとか？

高村：付き合っていた彼女と別れ、小中高時代の友人も失いました。

金塚：この病気になった多くの方々が、「周囲に理解してもらえない」という辛さを味わっています。

高村：この先どうなるのだろう？という不安が大きかったです。その後、少し症状が改善してきたためデイケアに二年間ほど通いました。月曜から金曜まで通い、ソフトボール大会やオリエンテーションなどにも参加しました。その後、作業所に二年間ほど通いました。

【JSN】の訓練を経て障害を開示して就職

金塚：【JSN】に来るきっかけは？

高村：その後転院して、統合失調症という診断を受けました。その病院の先生から【JSN門真】を紹介してもらいました。お金を稼ぎたいと考えていたのですが、作業所の工賃が安く「就職して働きたい」と考えるようになりました。

金塚：【JSN】は基本的に障害をオープンにして就職することを前提としています。そこに抵抗はありませんでしたか？

高村：ありのままの自分を評価してもらいたいと考えていたため、オープンにすることは構わないと思いました。

金塚：障害をオープンにするかクローズドするか。そこで悩まれる方は多くおられます。私たち支援者は双方のメリットとデメリットをしっかりと把握しておく必要があると思います。【JSN】に入所してからはどんな訓練を行いましたか？

高村：軽作業や体験実習、雇用前実習などがありました。もしくは自分自身でハローワークに出向き、求人票を探すこともあります。

金塚：体験実習は【JSN】のメインとなる訓練です。一人につき3～4ヶ所の実習に行かれます。一ヶ月か二カ月かけて、じっくりと実習を行います。一週間くらいなら気合いを入れて乗り切ってしまうことができますが、時間をかけることによって本来の自分というものが出てきます。うまくいかなかったことを振り返り、次に生かす。自己理解を深めるために必要な期間だと思います。【JSN】スタッフの対応はいかがでしたか？今、となりに高村さんの担当支援員だった大谷もおりますが。

高村：定期的な面談で体調のことをアドバイスしてくれたり、悩み事を相談したりしていました。訓練で役に立ったことはまず、挨拶をすること。わからないことはその場で尋ねること。そして、「【JSN】三訓」です。三訓とは「挨拶はされるものでなく、するものである。失敗を恐れるな、失敗は経験である。一歩踏み出す勇気、それが一番大事」です。

金塚：長く働き続けるためには「相談すること」はとても大切です。また、失敗を恐れていると自分で新しいものを獲得するチャンスを逃してしまいます。高村さんはどのようなところで実習を行いましたか？

高村：酒屋とリサイクルショップと医療センターです。雇用前実習の二ヶ月間を経て、医療センターには訓練後に就職をしました。しかし二年間働いた後、退職しました。体力的に厳しく感じ、ジョブコーチに相談せず、自分自身で勝手に判断して辞めてしまいました。その後、A型事業所に行ったのですが、一般企業への就職がほとんどなかったため、【JSN新大阪】に再入所しました。

金塚：どんな訓練をされましたか？

高村：週五日フルタイムで、基礎訓練を行いました。雇用前実